



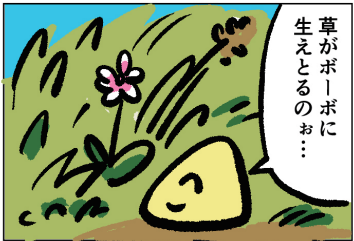
WebSite



X

編集 / 発行

この時期 公園あるある 木場のニャー



都内最安ラーメンを探しています。



やまや (森下3-5-14) ラーメン (350円)

江東区内にオープンした新店舗【5月後半】

5/17 ジングスカン専門店「ジ
ングスカン 星の羊」豊洲
4-6-2、5/18 台湾茶と点心
を中心にした茶館&居酒屋
「七星潭茶楼」亀戸 6-9-7、
5/19 居酒屋「のみくい処 も
もすけ」大島 5-8-15、カツ
丼、とんかつ専門店「かつや
東陽町店」南砂 2-1-3、5/26
居酒屋「浜焼うまっちょ」北砂
4-9-10、5/27 買取専門店
「Rehella by BOOKOFF 清
澄白河店」白河 3-4-3、5/28
焼肉店「スタミナホルモン軒」
木場 5-3-4

「雨宿りの本棚で」物語を通して出会う、もうひとつの江東区

小説「忍ぶ川」



深川の遊郭跡を舞台にした三浦哲郎の短編小説。第44回芥川賞受賞作品。かつての遊郭の記憶を残す深川の町を舞台に、過去を背負う男女がひっそりと寄り添う物語。静けさのなかに潜む情熱や、再生への希望が淡く描かれ、歩く風景の一つひとつに郷愁がにじむ。深川という土地が持つ時間の重なりと人の情が、読後にやさしく残る一編。短編小説のお手本みたいな美しさ。

映画「洲崎パラダイス 赤信号」



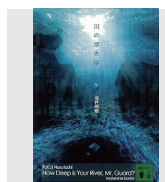
芝木好子の小説「州崎パラダイス」を原作に、1950年代の洲崎遊郭を舞台に描かれる切なくも美しい恋の物語。かつて栄えた花街の名残をとどめる江東区・洲崎の街角に、社会の片隅で生きる男女の哀しみと希望がにじみ出ます。モノクロ映像が映し出す湿り気を帯びた路地裏と心の奥に潜む愛情の機微。昭和の終わりゆく情景とともに、人と街の記憶が静かに胸を打つ一作。

漫画「一級建築士矩子の設計思考」



鬼ノ仁が描く、20歳にして一級建築士となった古川矩子が亀戸で設計事務所を立ち上げ、街と向き合いながら成長していく物語。設計の視点から見た都市空間や地元の人々とのふれあい、グルメを通じた地域との関係が丁寧に描かれています。作品内には実在する店舗や風景も登場し、いぐち式(亀戸6-24-8)が2巻に登場。お店には実際にサイン入り原稿も飾られています。

小説「川の深さは」



始まりの舞台は亀戸。元マル暴刑事の桃山が保護した少年と少女をきっかけに、国家の間に迫る陰謀へと巻き込まれていくサスペンス小説。地下鉄テロ、極秘情報機関、少年の過去といった重層的なテーマが交錯し、読者を深淵へ引きずり込む。福井晴敏のデビュー作で「Twelve Y. O.」と「亡国のイーゼス」とも世界観を共有する原点的傑作。朝高サンドを食べながらどうぞ。

漫画「するめいか」



ルーツ作。舞台は亀戸、女子高生ミッチョンとサチのシュールな日常を描くギャグ漫画。幻冬舎から5巻(完結)の単行本が出ている。また、作者による自主制作アニメ一期~五期全41話がニコニコ動画に上がっていて(まだ観れるはず)DVD化も。アニメには亀戸周辺の実写風景がめっちゃめっちゃ出てきます。【ネタバレ注意】亀戸天神の菅原道真は最後に薄と結婚します。

漫画「深川三代目」



「こちら葛飾区亀有公園前派出所」の秋元治が描く下町物語。舞台は深川にある老舗の材木店。主人公は元気で情に厚い下町っ娘。日々の仕事に励みながら、近所の人々との交流や家族との絆を通して成長していく姿が、ユーモアと温かさを交えて描かれています。昭和の面影を残す深川の街並みも描かれ、江東区の下町文化を知る上でも貴重な一作です。巻末に深川の地図も。

小説「理由」



宮部みゆきが描く、高橋の簡易宿泊施設で起きた殺人事件を巡る重層的な群像劇。第120回直木賞受賞。それぞれの登場人物の視点から語られる物語は、少しずつ事件の真相と人間関係の複雑さを浮かび上がらせていく。被害者と加害者だけでなく周囲の人々の人生までも描き出す筆致は圧巻。深川出身の著者ならではの江東区への眼差しが物語に深みを与え、読後に静かな余韻。

映画「小名木川物語」



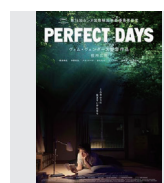
深川の歴史と人情を背景に描かれた自主制作映画。地元の風景や暮らしを丁寧にすくい上げながら、地域に根ざした物語が静かに展開されていきます。制作には地元の方々が多く参加協力しており、街への愛情と誇りがにじむ一作。小名木川やその周辺の景色が美しく映し出され、深川の魅力を再発見できる作品としても見応え大。地域文化へのまなざしが温かく心地よい。

漫画「文豪の食彩」



原作は壬生篤、作画は本庄敬。毎朝新聞深川支局の二人組が文豪と食をテーマにした連載を企画し取材していくという設定で、森鷗外や永井荷風といった文人たちの食卓をめぐる逸話を辿りながら、当時の町の風情や文化を丁寧に描いていく。設定上、深川の風景が頻出しますが、江東区が深く関わるのは、芥川竜之介が愛した亀戸・船橋屋の葛餅園。蘊蓄モノは面白い。

映画「PERFECT DAYS」



ドイツの巨匠、ヴィム・ヴェンダース監督。亀戸を舞台に清掃作業員として働く男性の日常を繊細に描いた映画。主演の役所広司はこの作品で第76回カンヌ国際映画祭・最優秀男優賞を受賞。天祖神社や商店街など、江東区の風景が物語にやさしい奥行きを与えています。セリフよりも光や音、表情が語る世界。静かな感動がじんわりと心に残る、街と共に味わいたい一作。